



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第48巻第
5号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第48巻第5号). 泌尿器科紀要 2002, 48(5): 332-332

ISSUE DATE:

2002-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114740>

RIGHT:

4. 論文の訂正 査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円、英文は6,500円、超過頁は1頁につき7,000円、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円、6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編 集 後 記

サッカーワールドカップ直前である。この編集後記が皆さんの目に触れるころには日本の第一戦の結果がわかっていると思う。サッカーは世界で最も競技人口が多く、その世界一が決まるこのワールドカップでは、どの国民も熱狂的な愛国者となる。日本チームを心から応援しているが、世界はそんなに甘くはないだろう。

どんな競技でも強くなるには長い伝統が必要である。伝統とは具体的に何かと聞かれると返事に困るが、その競技に対する姿勢、情熱、闘いに臨む場合の心構え、体調管理、勝負に対するこだわり、最後の集中力、これらの全てを含む、言葉では表現出来ないパワーとでも言えるかもしれない。このような不思議な力は、多くの人間が長い期間をかけて醸成するもので、いくら頑張っても一朝一夕で備わるはずはない。

日本チームの最大の利点は開催国であるという点である。多くの日本人の心からの応援は大きな力になると思う。国際社会で自信を失い、日本人であることに誇りを持たないような事件が頻発しているが、このワールドカップだけは「じゃまをする国はぶっつぶす。」(あまり品のいい言葉でなくてすみません。) くらいの気持ちで、愛国心満タンで応援したい。

(小川 修)